



子ども虐待防止における教育分野との連携

子ども虐待防止
オレンジリボン運動

子ども虐待防止では関係機関による連携の重要性はいうまでもないことであり、児童虐待防止法にも規定が置かれています。とくに学齢児への虐待の防止には学校・教育委員会等の教育分野が果たす役割はきわめて重要です。しかし、学校・教育委員会が関与していたにもかかわらず、子どもを保護できなかった事例は少なくありません。この背景には、子ども虐待防止のネットワークにおいて、関係機関の連携に対する認識に差があることに加え、教育分野の対応力も課題としてあげられます。

今回のシンポジウムでは、子ども虐待防止に重要な役割を果たす教育分野に焦点を当て、海外での取り組み、日本の現状と制度上・運用上の課題を考えます。また、教員養成における虐待防止実践力の向上、制度設計の方向性のあり方についても検討します。

関係者はもちろん、子ども虐待問題に関心のある市民の方々のご参加をお待ち申し上げます。

基調講演

「教育と子ども虐待

～現状と今後を見据えて～

講師 岡本 正子氏

大阪教育大学教育学部特任教授



Profile

1974年、京都府立医科大学卒業後、児童精神科医師として子どもと家族の治療に携わる。1997年、大阪府中央子ども家庭センター常勤医師。2003年、大阪教育大学教育学部教授。2014年4月から現職の他、頌栄短期大学客員教授。「性的虐待事案に係る児童とその保護者への支援のあり方に関する研究」を行い、「性的虐待を受けた子ども・性的問題行動を示す子どもへの支援」(2012、八木修司共編)、「児童虐待と子どもの精神保健—性的虐待を中心に」(2006、共著)等を刊行。子ども虐待と教育に関しては、二井仁美らと学校における子ども虐待対応の現状とその海外状況を調査し、2011～13科研(23330225)報告書「子ども虐待防止の実践力を育成する教員養成のあり方」を作成。現在は、イギリスにおける「Safeguarding in Schools」に注目する。

「子ども虐待防止における教育の役割

～教員養成の視点から～

講師 二井 仁美氏

北海道教育大学教育学部教授



Profile

教育史研究者として感化院・教護院・児童自立支援施設の歴史研究に取り組むなかで「教育と福祉の谷間」と言われる課題に出会う。谷間に橋を架ける教員養成に従事すべく、1992年、大阪教育大学に着任。岡本正子らと共に、教員志望者を対象として子ども虐待に関するTT授業を行い、「教員のための子ども虐待理解と対応—学校は日々のケアと予防の力を持っている」(2009、岡本正子・森実共編)を刊行した。2011年より現職。岡本正子・島善信らと、学校における子ども虐待対応や教員養成での子ども虐待の扱い方を調査し、「子ども虐待防止の実践力を育成する教員養成のあり方」を考察。主著「留岡幸助と家庭学校 近代日本感化教育史序説」(2010)、編著「子どもの人権問題資料集 戦前編 子ども虐待」(2009)等。

「子ども虐待防止における教育分野との連携」

シンポジウム

シンポジスト

学校・教育委員会から
児童相談所から
ソーシャルワーカーから
学校現場から

島 善信氏
薬師寺 順子氏
金澤 ますみ氏
園田 彦一氏

大阪教育大学教職教育研究センター特任教授
大阪府福祉部子ども室家庭支援課 参事
桃山学院大学社会学部社会福祉学科准教授
東大阪市立八戸の里東小学校 校長

コーディネーター

岡本 正子氏
二井 仁美氏

大阪教育大学教育学部特任教授
北海道教育大学教育学部教授

日時

2015年1月25日(日)

13:00～17:00 (12:30開場)

会場

発明会館 東京都港区虎ノ門2-9-14
<http://hatsumeikaikan.com/>

参加費

無料 事前申し込み不要 無料託児あり

託児は事前申し込み 託児所を希望される方は、1月19日(月)までにメールにてご連絡ください。*人数に限りがあります。

主催

認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク
一般財団法人 こども未来財団

後援

内閣府、厚生労働省、文部科学省、日本子ども虐待防止学会、
公益財団法人 SBI子ども希望財団、読売新聞社、東京都(申請中)、東京都教育委員会(申請中)

